

BlitzemTimes

April.2025
Vol.90



Race Report

- 3.29 真岡芳賀ロードレース
3.30 宇都宮清原クリテリウム

今年もJプロツアームクドリ2連戦で開幕

宇都宮ブリッジエンにとつて全日本選手権、宇都宮ジャンバンカップと並び重要なJプロツアーマクドリ2連戦。初戦の第2回NTT東日本真岡芳賀ロードレースは、平坦基調の122.4キロで争われる。新体制になって初めて初めて臨むホームレース。ブリッジエンの存在感を示すことは、今後のレースを戦う上でも重要なことだ。



前日と比べて気温は低下、レースは雨の中でスタートした。スタート直後は、オーブン参加の寺田吉騎(Bahrain Victorious development team)選手をはじめ、さまざまな選手が攻撃を仕掛ける。ブリッジエンもこの動きにおくれを取らぬよう、武山やルーベン、沢田、花田など各選手がチェックしていた。

逃げができたのは6周目。谷、白川幸希(ヴァイクトワール広島)選手、高梨万里王(レバントフジ静岡)選手の3名の逃げが完成する。しかし、この動きを許さなかつたのがレース前に岡が「頭一つ抜けていると思つ」と話していたナームブリヂストンサイクリング。ペースアップを図り、逃げの3人を吸収する。同時に、このペースアップについていけない選手が続出し、30名ほどの集団となる。

次にレースが動いたのは、9周回完了手前。フォン、寺田選手、宮崎泰史(KINAN Racing Team)選手、織田聖(マトリックスパワータグ)選手、松田祥位(チームブリヂストンサイクリング)が、5名の逃げに。松田選手はその後ドロップし、4人の逃げとメイン集団

が残っていた。

周回を重ねてもこの構図は変わらず。タイム差はラスト1周で25秒と逃げ切りが濃厚になる。

そして、最後のスプリント勝負。ここまで120キロ以上を走り消耗する中で、最後のコーナーをフォンは2番手で入り、スプリントを開始。フォンは見事なスプリントで優勝を果たした。最後は後ろを振り返り確認するほどの余裕。ガッツボーズでファニッシュ。インを通過した。

ツール・ド・台湾、終了後「今後、どのレースでもチャンスがあれば勝ちにいく。次のホーム2連戦は重要なレース。チームとしても戦っていきたいし、全力でサポートしていきたい」と話していたフォン。乗らなければいけない逃げに乗れたこと、最後のスプリントで勝つことができたのは、ロードレーサーとしてのこれまでの経験があるからこそだ。

また、フォン以外の選手は序盤でしっかりチェックに入り、岡や沢田はもちろん若手の菅野も最終盤まで残った。優勝以外にも収穫があつたレースとなつた。

という構図になる。なお、メイン集団には岡と菅野、



[フォン・チュンカイ選手のコメント]

温かいサポートをありがとうございます。チームメイトやスタッフにも感謝しています。UDレースやJプロツア、これからも激しい戦いが続していくと思うが、僕たちは勝つことを目標に進んでいきます。



NTT 東日本 真岡芳賀ロードレース

1位 フォン・チュンカイ(宇都宮ブリッジエン)	2h'56"06	10位 岡 篤志	+0' 17"
2位 織田 聖(マトリックスパワータグ)	+0'00"	24位 菅野蒼羅	+7' 04"
3位 宮崎泰史(KINAN Racing Team)	+0'00"	25位 沢田 時	+7' 55"
		DNF 武山晃輔	
		DNF 花田聖誠	
		DNF ルーベン・アコスタ	
		DNF 谷 順成	



最終周回、 大集団スプリントを制したのは?!

フォン・チュンカイの勝利で最高のホーム初戦を飾ったブリッジエン。清原工業団地周辺周回コースで開催される1周3キロと短距離で争われる本レースは、大集団スプリントが予想される。残り数周回からの位置取りが非常に重要なだ。

レースは予選をクリアした120名が決勝へ。
ブリッジエンは、5名で決勝に臨むことになった。



レースは、昨日同様アタック合戦の応酬。6周目では沢田が単独で飛び出すも吸収されてしまった。その後、複数人が飛び出す場面もあったが、決定的な逃げは完成しなかった。

10周回完了時の先頭通過者に与えられる地元賞では、孫崎大樹(ヴィクトワール広島選手や渡辺一氣(京都産業大学)選手、林原聖真(群馬グリフィンレーシングチーム)選手、宮崎泰史(KINAN Racing Team)選手が抜け出したが、再び集団は一つとなり。レースは逃げができないまま進行。17周では沢田と、同じくシクロクロス選手としても活躍する織田(マトリックスバーチャル)選手が2人で先行した場面もあったがそれも吸収される。

この頃、優勝候補のチーム(ブリッジエン)は人数を揃えて名チームがまとまり始める。一方で、周目、人数を揃えているのはブリヂストン。一方で、入るという状況だった。

18周 林原選手が飛び出した場面もあったが吸収。スプリントを見据えて名チームがまとまり始める。19周目、人数を揃えているのはブリヂストン。一方で、

武山や沢田も先頭に入り、岡とフォンの脚を休ませる。ラストの20周目に突入。ブリッジエンは、フォンと岡がまとまり走行。Sparkle Oita Racing Team(ヴィクトワール広島)ブリヂストンもスプリントに備えて一同走行。その後、岡はブリヂストントレインにスイッチし、番手をとる。Sparkle Oita Racing Teamやヴィクトワール広島も複数人をそろえる中、枚数的には不利、しかし岡のテクニックであれば可能性はある。

最後のコーナー。岡はブリヂストンの後ろから単独でいち早くスプリントを開始。踏み続けたが最後は孫崎選手にかわされ惜しくも2位となつた。

しかし、単騎になったにも関わらず、持ち前の身体能力で優勝争いに食い込み、サポーターを沸かせた。



【岡篤志選手のコメント】

強豪チームを相手に最終局面でフォン選手が素晴らしい動きをしてくれた。いい形で最終コーナーを曲がれたが、あと少しのところで力及ばず勝ち切れなかつたので、本当に悔しいところ。ただ、みんなよく動いてくれていいレースができるのではないかと思う。

(最終的に岡選手とフォン選手、どちらがスプリントをするかは2人で決めるようにとミーティングで言われたことに対して)最終的には今日は「岡が」とフォンが言ってくれたが、自分自身、昨日いい走りができず自信をなくしていることもあった。しかし、フォンが「ついていく」といって引き上ってくれた。自分が行くしかないという思いで走った。終盤はラスト2kmくらいでフォン選手が先頭に出てくれた。数を揃えるブリヂストンの選手(ラスト700m)ぐらいで抜かれた。そこで自分もなるべくポジションを失わないように、ブリヂストンの最後の選手の後ろにつけるように、他のチームと戦いながらボジョン取りをした。

ただ、最終コーナーからゴールまでは短い。そこからブリヂストンの選手を追い越すのは不可能なため、イチかバチか400mぐらいでスプリントをかけて、最終コーナーの前で先頭に出ようとしたが、イン側を占められて失速して、スピードに乗れなかった。自分も強引に行ってしまったため仕方ない。それがなければいけたかなと思う。チーム内の連携に関しては、ツール・ド・台湾から何度も揉める場面があったが、レベルも高くトレインを組めなかつた。しかし、今回いい形はできたかなだと思う。人数が足りなかつた部分もあったが、最後はいい形でスプリントに臨めた。

NTT 東日本 宇都宮清原クリテリウム

1位 孫崎大樹(ヴィクトワール広島)	1h' 18"02	40位 谷 順成	+0' 06"
2位 岡 篤志(宇都宮ブリッジエン)	+0' 00"	44位 沢田 時	+0' 07"
3位 黒枝士揮(Sparkle Oita Racing Team)	+0' 00"	77位 フォン・チュンカイ	+0' 24"



真岡芳賀ロードレース 優勝記念グッズ販売決定!!



▲ステッカー (54mm×54mm)

▲ステッカー (55mm×65mm)

◀アクリルスタンド (70mm×120mm)

※デザインは制作中のため、変更になる場合がございます。

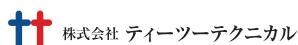
アクスタ+ステッカー2枚セット
3,000円

購入はこちらから→

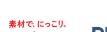
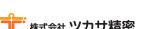
宇都宮ブリツツェンオンライングッズショップ
<https://blitzen.theshop.jp/>



私たちは宇都宮ブリツツェンを応援しています。



この街を走る幸せを、ともに
Honda Cars 栃木中央



Thank you for your support.

Blitzen 3